

本校における英語教育の現状と課題

- ◆ 英語に対して苦手意識を持っている生徒が多い
- ◆ 言語活動で「目的・場面・状況」を意識して取り組んでいるが、正しく発話することを意識し過ぎるあまり、英語を使って話す楽しさを感じている生徒は少ない
- ◆ 「聞くこと」はできるが「話すこと」が苦手であったり、「読むこと」はできるが「書くこと」は苦手であったりするなど、4技能を統合的に活用してコミュニケーションを図ることに難しさを感じている

本校における具体的な取組内容

- ◆ 自分の考えや気持ちを伝え合うことを大切に、4技能を統合的に活用した言語活動の充実
- ◆ 小・中・高の学びを系統的につなげることを意識した指導
- ◆ CAN-DOリストの見直しや生徒との共有による身に付けさせたい力の明確化
- ◆ バックワードデザインによる単元計画に基づいた目標・指導・評価の一体化
- ◆ デジタル教科書や一人一台端末を活用した「個別最適な学び」の充実

今年度の取り組みについて

言語活動の様子

- **本物にこだわった言語活動とパフォーマンス課題の設定**
⇒生徒が思考し、相手の状況に合わせて発信した英語を、本当にその相手が受け取ることができるような環境作りをすることで、主体的に考え、必死に伝えようとしている生徒が増えた。
- **生徒自身が言語活動を行う際の「目的・場面・状況」を意識**
⇒今回はどんな設定？どこ出身？日本（山梨）にどれくらいいる人？など相手の状況に合わせて、伝える内容を考えるようになった生徒が増えた。

言語活動・帯活動・Small Talkでの工夫

- **ちょっとした「目的・場面・状況」を常に設定**
⇒どんなときでも「相手の状況などを考えて伝える」という意識をもつことができつつある。
- **MEXCBT「話すこと」問題の活用**
⇒絵や写真などを説明する問題だが、ただ説明を生徒と考えるのではなく、やり取りを通して、絵や写真から想像できる「場面・状況」を考えることで生徒の発話内容が充実する。

領域統合を意識した授業づくり

- **「聞く・読む・話す・書く」ことをバランスよく組み合わせた単元設計**
⇒第二言語習得における順序（聞く⇒読む⇒話す⇒書く）に配慮しながら、授業を組み立てていくことで、生徒はバランスよく力をつけていくことができつつある。
- **題材や教科書本文のテキストタイプに応じた言語活動及び主に扱う領域の設定**
⇒教師がテキストと向き合い、言語の使用場面等を考えることが、生きた英語を生徒に学ばせていくことにつながっていく。

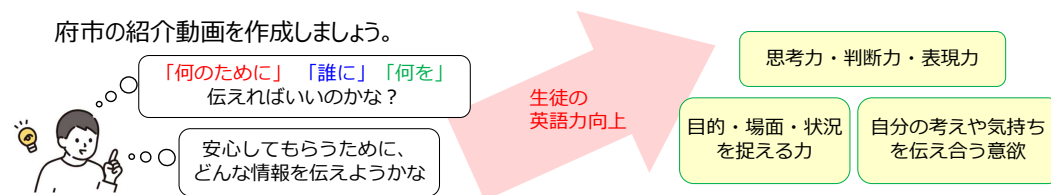


提案授業について



- 学年：第2学年
- 単元名：Unit5 Universal Design（New Horizon English Course2 東京書籍）
- 領域：話すこと（発表）
- 単元目標：甲府市への交流を考えている**デモン市の人々**が**甲府市で安心して楽しく過ごすことができるように**、甲府市で施されている**ユニバーサルデザイン**などについて紹介することができる。

- パフォーマンス課題：
 - 「本物」 ※地域や市教委との連携、ALTのネットワークにより実現
- アメリカのデモンは**甲府市の姉妹都市**です。**デモン出身のALTのジェイク先生**から、甲府市への交流を考えている**デモンの生徒たち**が、**甲府市で安心して楽しい時間を過ごすことができるように**、みなさんへ**甲府市の紹介**動画作成の依頼がきました。ジェイク先生からの動画作成依頼のビデオメッセージを見て、甲府市への交流で来日を考えている人たちが、安心して楽しく過ごすことができるように、甲府市の紹介動画を作成しましょう。



成果と課題



成果

- 「言語活動を通して」英語を学んでいく生徒の姿勢が変化した。
⇒生徒が「目的・場面・状況」設定に自ら目を向けて言語活動に取り組む。
- 「本物」にこだわった言語活動とパフォーマンス課題の設定が、生徒の「思考力・判断力・表現力」と「主体的に学習に取り組む態度」を大きく変化させた。
- 言語活動における「目的・場面・状況」を踏まえた中間指導が、生徒の英語力を育てる。生徒が自らの思考を巡らせ、伝える「相手のため」に必死になる姿、またそのための工夫。
- 「単元の目標」「本時の目標」「パフォーマンス課題」を達成するために、**自ら学年や校種（小学校の学び）を超えた学びを活用しようとする生徒が増えた。**

課題

- ▲教科書題材（主に「社会的な話題」）を生徒の身近に落としたうえで、必然性がある言語活動や目的・場面・状況の設定。
- ▲テキストタイプに合わせ、領域統合を意識した単元計画と言語活動、目的・場面・状況の設定。
- ▲生徒の英語がネイティブスピーカーに本当に届くような学習環境整備。
- ☆評価されるために英語を使用するのではなく、相手に届ける【コミュニケーションを図る】ために使用する生徒の意識改革と環境整備。